



コンフィギュレーションのインポート/エクスポート

- [コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて \(1 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションのインポート/エクスポート用暗号キーの設定 \(2 ページ\)](#)
- [FXOS コンフィギュレーションファイルのエクスポート \(3 ページ\)](#)
- [自動設定エクスポートのスケジューリング \(5 ページ\)](#)
- [設定エクスポート リマインダの設定 \(6 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションファイルのインポート \(7 ページ\)](#)

コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて

Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォームのコンフィギュレーション設定を含むXMLファイルをリモートサーバまたはローカルコンピュータにエクスポートするコンフィギュレーションのエクスポート機能を使用できます。そのコンフィギュレーションファイルを後でインポートしてFirepower 4100/9300 シャーシに迅速にコンフィギュレーション設定を適用し、よくわかっている構成に戻したり、システム障害から回復させたりすることができます。

ガイドラインと制限

- FXOS 2.6.1 から、暗号キーを設定できるようになりました。コンフィギュレーションをエクスポートする前に、暗号キーを設定する必要があります。エクスポートしたコンフィギュレーションをインポートするときには、システムに同じ暗号キーを設定する必要があります。エクスポート時に使用したものと一致なくなるように暗号キーを変更した場合、インポート操作は失敗します。エクスポートした各コンフィギュレーションに使用した暗号キーを必ず記録しておいてください。
- コンフィギュレーションファイルの内容は、修正しないでください。コンフィギュレーションファイルが変更されると、そのファイルを使用するコンフィギュレーションインポートが失敗する可能性があります。

- 用途別のコンフィギュレーション設定は、コンフィギュレーションファイルに含まれていません。用途別の設定やコンフィギュレーションを管理するには、アプリケーションが提供するコンフィギュレーションバックアップツールを使用する必要があります。
- Firepower 4100/9300 シャーシへのコンフィギュレーションのインポート時、Firepower 4100/9300 シャーシのすべての既存のコンフィギュレーション（論理デバイスを含む）は削除され、インポートファイルに含まれるコンフィギュレーションに完全に置き換えられます。
- RMA シナリオを除き、コンフィギュレーションファイルのエクスポート元と同じ Firepower 4100/9300 シャーシだけにコンフィギュレーション ファイルをインポートすることをお勧めします。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシのプラットフォーム ソフトウェア バージョンは、エクスポートしたときと同じバージョンになるはずですが、異なる場合は、インポート操作の成功は保証されません。シスコは、Firepower 4100/9300 シャーシをアップグレードしたりダウングレードしたりするたびにバックアップ設定をエクスポートすることを推奨します。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシでは、エクスポートしたときと同じスロットに同じネットワークモジュールがインストールされている必要があります。
- インポート先の Firepower 4100/9300 シャーシでは、インポートするエクスポートファイルに定義されているすべての論理デバイスに、正しいソフトウェアアプリケーションイメージがインストールされている必要があります。
- インポートするコンフィギュレーションファイルに、そのアプリケーションにエンドユーザーライセンス契約書（EULA）がある論理デバイスが含まれていると、コンフィギュレーションをインポートする前に、そのアプリケーションの EULA が Firepower 4100/9300 シャーシで受け入れられている必要があります。受け入れられていない場合、操作は失敗します。
- 既存のバックアップファイルが上書きされるのを回避するには、バックアップ操作内のファイル名を変更するか、既存のファイルを別の場所にコピーします。



(注) FXOS のインポート/エクスポートは FXOS の設定のみをバックアップするため、ロジックアプリを個別にバックアップする必要があります。FXOS の設定をインポートすると、論理デバイスが再起動され、工場出荷時のデフォルト設定でデバイスが再構築されます。

コンフィギュレーションのインポート/エクスポート用暗号キーの設定

コンフィギュレーションをエクスポートするときに、FXOS はパスワードやキーなどの機密データを暗号化します。

FXOS 2.6.1 から、暗号キーを設定できるようになりました。コンフィギュレーションをエクスポートする前に、暗号キーを設定する必要があります。エクスポートしたコンフィギュレーションをインポートするときには、システムと同じ暗号キーを設定する必要があります。エクスポート時に使用したものと一致しなくなるように暗号キーを変更した場合、インポート操作は失敗します。エクスポートした各コンフィギュレーションに使用した暗号キーを必ず記録しておいてください。

暗号キーは、[Export] ページまたは [Import] ページのいずれかで設定できます。ただし、一度設定すると、エクスポートとインポートの両方に同じキーが使用されます。

2.6.1 より前のリリースの FXOS からエクスポートしたコンフィギュレーションを FXOS 2.6.1 以降にインポートする場合、システムは暗号キーをチェックせずにインポートを許可します。



- (注) インポート先のプラットフォームのソフトウェアバージョンが、エクスポート実行時と同じバージョンではない場合、インポート操作を正常に実行できる保証はありません。シスコは、Firepower 4100/9300 シャーシをアップグレードしたりダウングレードしたりするたびにバックアップ設定をエクスポートすることを推奨します。

[バージョンの設定 (Set Version)] オプションを使用するとともに、FTD 論理アプライアンスが新しいソフトウェアにアップグレードされるたびにバックアップ設定をエクスポートします。これにより、新しいスタートアップバージョンがアップグレードされたバージョンのソフトウェアリリースと一致するようになります。

手順

ステップ 1 [System] > [Configuration] > [Export] の順に選択します。

ステップ 2 [Encryption] で、機密データの暗号化/復号化に使用するキーを [Key] フィールドに入力します。暗号キーの長さは 4 ~ 40 文字である必要があります。

ステップ 3 [Save Key] をクリックします。

暗号キーが設定され、コンフィギュレーションのエクスポートおよびインポート時に機密データの暗号化/復号化に使用されます。[Key] フィールドの横に *Set: Yes* と表示され、暗号キーが設定されていることが示されます。

FXOS コンフィギュレーション ファイルのエクスポート

エクスポート設定機能を使用して、Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモートサーバまたはローカルコンピュータにエクスポートします。

始める前に

「[コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて](#)」を確認してください。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [設定 (Configuration)] > [エクスポート (Export)] の順に選択します。
- ステップ 2** コンフィギュレーション ファイルをローカル コンピュータにエクスポートするには、[ローカルにエクスポート (Export Locally)] をクリックします。
コンフィギュレーション ファイルが作成され、ブラウザによって、ファイルがデフォルトのダウンロード場所に自動的にダウンロードされるか、またはファイルを保存するようプロンプトが表示されます。
- ステップ 3** コンフィギュレーション ファイルを設定済みのリモート サーバにエクスポートするには、使用するリモート構成の [エクスポート (Export)] をクリックします。
コンフィギュレーション ファイルが作成され、指定の場所にエクスポートされます。
- ステップ 4** コンフィギュレーション ファイルを新しいリモート サーバにエクスポートするには、次の操作を行います。
- [オンデマンドエクスポート (On-Demand Export)] の下で、[オンデマンド設定の追加 (Add On-Demand Configuration)] をクリックします。
 - リモートサーバとの通信で使用するプロトコルを選択します。選択できるプロトコルは、FTP、TFTP、SCP、または SFTP のいずれかです。
 - バックアップ ファイルを格納する場所のホスト名または IP アドレスを入力します。サーバ、ストレージアレイ、ローカル ドライブ、または Firepower 4100/9300 シャーシがネットワーク経由でアクセス可能な任意の読み取り/書き込みメディアなどを指定できます。
IP アドレスではなくホスト名を使用する場合は、DNS サーバを設定する必要があります。
 - デフォルト以外のポートを使用する場合は、[ポート (Port)] フィールドにポート番号を入力します。
 - リモート サーバにログインするためのユーザ名を入力します。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。
 - リモート サーバのユーザ名のパスワードを入力します。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。
 - [場所 (Location)] フィールドに、ファイル名を含む設定ファイルをエクスポートする場所のフルパスを入力します。
 - [OK] をクリックします。
リモート構成はオンデマンドエクスポート テーブルに追加されます。
 - 使用するリモート構成の [エクスポート (Export)] をクリックします。
コンフィギュレーション ファイルが作成され、指定の場所にエクスポートされます。
-

自動設定エクスポートのスケジューリング

スケジューリングされたエクスポート機能を使用して、Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォーム構成設定を含む XML ファイルをリモート サーバまたはローカル コンピュータにエクスポートします。エクスポートは、毎日、毎週、または2週間ごとに実行されるようにスケジューリングできます。設定のエクスポートは、スケジューリングされたエクスポート機能がいつ有効になるかに基づき、スケジューリングに従って実行されます。そのため、たとえば週ごとのスケジューリングされたエクスポートが水曜日の10:00pmに有効になる場合、システムは新しいエクスポートを水曜日の 10:00pm ごとに開始します。

エクスポート機能の使用に関する重要な情報については、「[コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [設定 (Configuration)] > [エクスポート (Export)] の順に選択します。
- ステップ 2** [Schedule Export] をクリックします。
[スケジューリングされたエクスポートの設定 (Configure Scheduled Export)] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** リモートサーバとの通信で使用するプロトコルを選択します。選択できるプロトコルは、FTP、TFTP、SCP、または SFTP のいずれかです。
- ステップ 4** スケジューリングされたエクスポートを有効にするには、[有効化 (Enable)] チェックボックスをオンにします。
- (注) このチェックボックスを使用して、スケジューリングされたエクスポートを後から有効または無効にできます。ただし、スケジューリングされたエクスポートを有効または無効にするには、もう一度パスワードを指定する必要があります。
- ステップ 5** バックアップ ファイルを格納する場所のホスト名または IP アドレスを入力します。サーバ、ストレージアレイ、ローカル ドライブ、または Firepower 4100/9300 シャーシがネットワーク経由でアクセス可能な任意の読み取り/書き込みメディアなどを指定できます。
- IP アドレスではなくホスト名を使用する場合は、DNS サーバを設定する必要があります。
- ステップ 6** デフォルト以外のポートを使用する場合は、[ポート (Port)] フィールドにポート番号を入力します。
- ステップ 7** リモートサーバにログインするためのユーザ名を入力します。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。
- ステップ 8** リモートサーバのユーザ名のパスワードを入力します。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。

- ステップ 9 [場所 (Location)] フィールドに、ファイル名を含む設定ファイルをエクスポートする場所のフルパスを入力します。ファイル名を省略すると、エクスポート手順によって、ファイルに名前が割り当てられます。
- ステップ 10 設定を自動的にエクスポートするスケジュールを選択します。これは、[毎日 (Daily)]、[毎週 (Weekly)]、または [隔週 (BiWeekly)] のいずれかにできます。
- ステップ 11 [OK] をクリックします。
スケジュールされたエクスポートが作成されます。スケジュールされたエクスポートを有効にすると、システムは、指定の場所に、選択したスケジュールに従ってコンフィギュレーションファイルを自動的にエクスポートします。

設定エクスポート リマインダの設定

設定エクスポートが特定の日数実行されていないときにシステムにエラーを生成させるには、エクスポートリマインダ機能を使用します。

デフォルトでは、エクスポートリマインダは 30 日間の頻度で有効になっています。



- (注) リマインダの頻度が、スケジュールされたエクスポートポリシーの日数（毎日、毎週、または隔週）よりも短いと、エクスポートリマインダ障害メッセージ（「Config backup may be outdated」）が表示されます。たとえば、エクスポートスケジュールが毎週で、リマインダの頻度が 5 日間の場合、リマインダの間隔内に設定がエクスポートされないと、この障害メッセージが 5 日ごとに生成されます。

手順

- ステップ 1 [システム (System)] > [設定 (Configuration)] > [エクスポート (Export)] の順に選択します。
- ステップ 2 設定エクスポート リマインダを有効にするには、[Reminder to trigger an export] の下のチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3 最後に設定エクスポートが実行されてからリマインダエラーを生成するまでシステムが待機する期間を、1 ~ 365 の範囲の日数で入力します。
- ステップ 4 [Save Reminder] をクリックします。

コンフィギュレーション ファイルのインポート

設定のインポート機能を使用して、Firepower 4100/9300 シャーシからエクスポートした構成設定を適用できます。この機能を使用して、既知の良好な構成に戻したり、システム障害を解決したりできます。

始める前に

「[コンフィギュレーションのインポート/エクスポートについて](#)」を確認してください。

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [インポート/エクスポート (Import/Export)] を選択します。
- ステップ 2** ローカルのコンフィギュレーション ファイルからインポートする場合は、次の操作を行います。
- [ファイルの選択 (Choose File)] をクリックし、インポートするコンフィギュレーション ファイルを選択します。
 - [インポート (Import)] をクリックします。
操作の続行を確認するダイアログボックスが開き、シャーシの再起動についての警告が表示されます。
 - [はい (Yes)] をクリックして、指定したコンフィギュレーション ファイルをインポートします。
既存の設定が削除され、インポートしたファイルの設定が Firepower 4100/9300 シャーシに適用されます。インポート中にブレイクアウトポートの設定が変更された場合は、Firepower 4100/9300 シャーシの再起動が必要になります。
- ステップ 3** 設定済みのリモート サーバからコンフィギュレーション ファイルをインポートする場合は、次の操作を行います。
- リモート インポート テーブルで、使用するリモート構成の [インポート (Import)] をクリックします。
操作の続行を確認するダイアログボックスが開き、シャーシの再起動についての警告が表示されます。
 - [はい (Yes)] をクリックして、指定したコンフィギュレーション ファイルをインポートします。
既存の設定が削除され、インポートしたファイルの設定が Firepower 4100/9300 シャーシに適用されます。インポート中にブレイクアウトポートの設定が変更された場合は、Firepower 4100/9300 シャーシの再起動が必要になります。
- ステップ 4** 新しいリモート サーバからコンフィギュレーション ファイルをインポートする場合は、次の操作を行います。
- [リモート インポート (Remote Import)] の下にある [リモート設定の追加 (Add Remote Configuration)] をクリックします。

- b) リモート サーバとの通信で使用するプロトコルを選択します。選択できるプロトコルは、FTP、TFTP、SCP、または SFTP のいずれかです。
- c) デフォルト以外のポートを使用する場合は、[ポート (Port)] フィールドにポート番号を入力します。
- d) バックアップ ファイルが格納されている場所のホスト名または IP アドレスを入力します。サーバ、ストレージアレイ、ローカルドライブ、または Firepower 4100/9300 シャーシがネットワーク経由でアクセス可能な任意の読み取り/書き込みメディアなどを指定できます。
IP アドレスではなくホスト名を使用する場合は、DNS サーバを設定する必要があります。
- e) リモート サーバにログインするためのユーザ名を入力します。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。
- f) リモート サーバのユーザ名のパスワードを入力します。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。
- g) [ファイルパス (File Path)] フィールドに、コンフィギュレーション ファイルのフルパスをファイル名を含めて入力します。
- h) [保存 (Save)] をクリックします。
リモート構成がリモート インポート テーブルに追加されます。
- i) 使用するリモート構成の [インポート (Import)] をクリックします。
操作の続行を確認するダイアログボックスが開き、シャーシの再起動についての警告が表示されます。
- j) [はい (Yes)] をクリックして、指定したコンフィギュレーション ファイルをインポートします。
既存の設定が削除され、インポートしたファイルの設定が Firepower 4100/9300 シャーシに適用されます。インポート中にブレイクアウト ポートの設定が変更された場合は、Firepower 4100/9300 シャーシの再起動が必要になります。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。